

2024年3月期
決算説明資料

2024年5月29日

アイホン株式会社

本日の内容

01 2024年3月期
決算ハイライト

02 AIPHONE Vision 2025
第8次中期経営計画の更新

03 2025年3月期
業績の見通し

本日の内容

01 2024年3月期 決算ハイライト

02 AIPHONE Vision 2025 第8次中期経営計画の更新

03 2025年3月期 業績の見通し

部品供給

- 第1四半期に想定以上に回復、下半期以降の供給状況は概ね正常化
- 上半期を中心に国内外の納入残（バックオーダー）が解消
- 部品価格の高止まりにより、利益に大きく影響

為替変動

- 年度を通じて円安基調で推移し、海外市場の円貨売上が大幅に増加
- 海外生産子会社における部品コストの増加により、利益が減少

市場動向

- 国内外リニューアルのセキュリティ、非接触・非対面ニーズは高水準を維持
- 欧州を中心に住宅価格の高騰、ローン金利上昇等により、主軸の住宅市場の市況が低迷
- 3Q以降、北米を中心にオフィス等への設備投資に陰りが見え、海外売上高の伸びが鈍化
- 今年度における中国の不動産バブル崩壊に起因する業績への影響は僅少も、注視が必要

売上高 3Q以降の海外市場は鈍化するも、好調な国内市場のリニューアルが牽引し、過去最高の売上高を更新。

利益 売上高の大幅な増加により営業利益が前期比で大幅に増加。経常利益、当期純利益は過去最高を更新。

(億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2024年3月期 修正計画 [*]	前期比 増減率	修正計画比 増減率
売上高	528.1	過去最高 613.3	601.0	16.1%	2.1%
営業利益 (売上高営業利益率)	37.5 (7.1%)	52.6 (8.6%)	45.0 (7.5%)	40.2%	17.1%
経常利益	41.6	過去最高 61.3	51.0	47.1%	20.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	29.2	過去最高 46.4	37.0	58.6%	25.5%
為替レート (円)	USD	135.48	144.62	143.50	USD：アメリカ合衆国ドル EUR：ユーロ THB：タイバーツ
	EUR	140.97	156.79	155.77	
	THB	3.85	4.11	4.10	

* 2024年2月6日発表の修正計画

売上高の増減要因

(億円)



国内市場

372.4億円 ▶ **434.0億円**
前期比 16.5%増

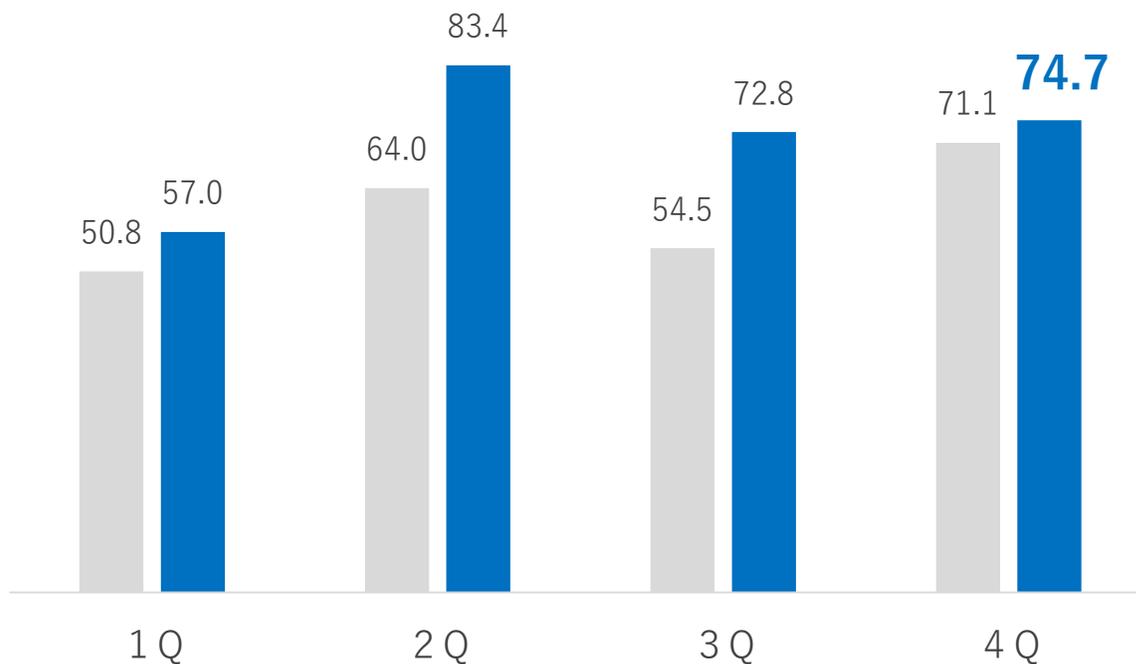
商品供給が正常化したことにより、前年度からの納入残が消化され、集合住宅市場のリニューアルを中心に販売が大きく伸長し、国内市場全体で大幅な増収となった。

海外市場

155.6億円 ▶ **179.2億円**
前期比 15.2%増

商品供給が正常化したことにより、北米を中心に前年度からのバックオーダーが解消、為替の影響もあり海外市場全体で大幅な増収となった。

■ 2023年3月期 ■ 2024年3月期 (億円)



	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	増減率
売上高 (億円)	240.5	288.0	47.5	19.8%

前期比

新築 2.9%減

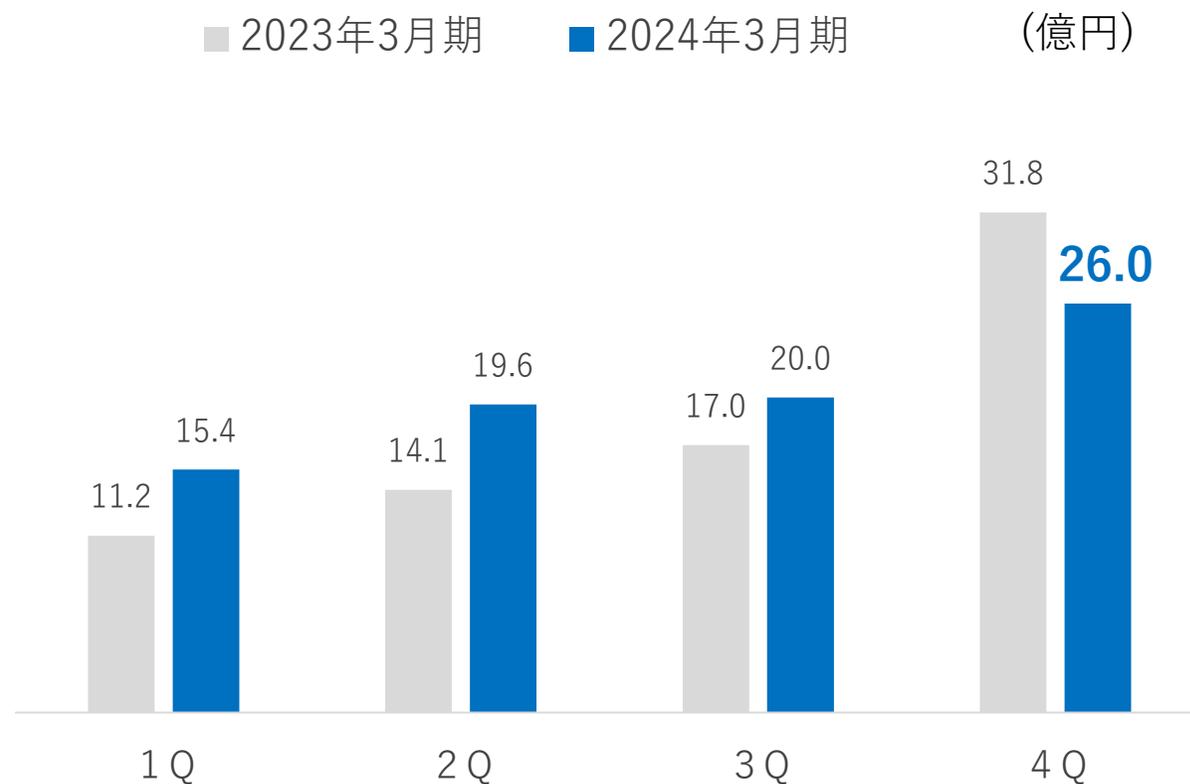
× 市場競争の正常化により、分譲マンション向けの販売が減少

リニューアル 36.6%増

◎ 商品供給の正常化により前年度からの納入残が解消、分譲・賃貸ともに販売が大幅に増加

◎ 賃貸マンション向け商品『PATMOα』の販売が好調に推移

◎ 分譲マンションにおいて高付加価値商品『dearis』の販売が好調に推移



	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	増減率
売上高 (億円)	74.2	81.1	6.8	9.3%

前期比

新築

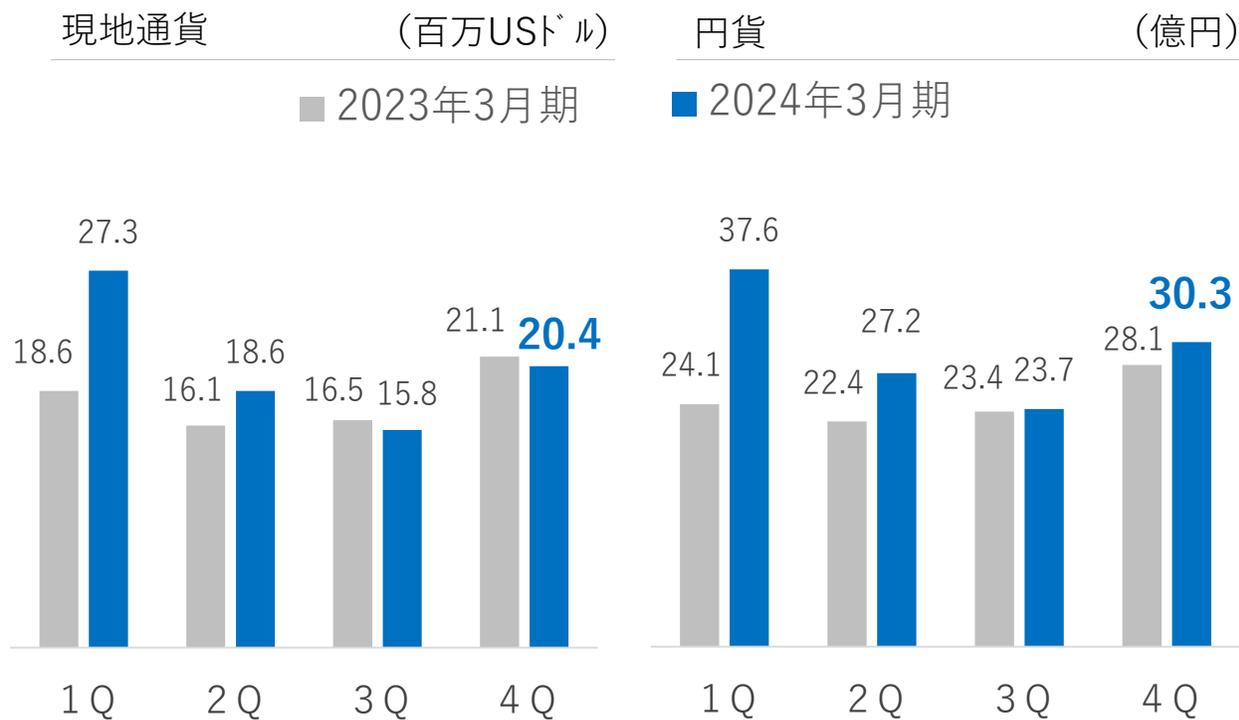
5.2%減

- ✕ 当社の納入時期にあたる病院の新築着工数が減少
- △ 商品供給の制限解除による売上のピークが前年度4Qに出たことによる失速感

リニューアル

15.4%増

- ◎ ソリューション提案活動により、病院等への販売が好調に推移
- ◎ 施設等の『見守り支援』需要が高まるとともに、自治体等からの補助金活用によりシステム導入が進捗、販売が好調に推移



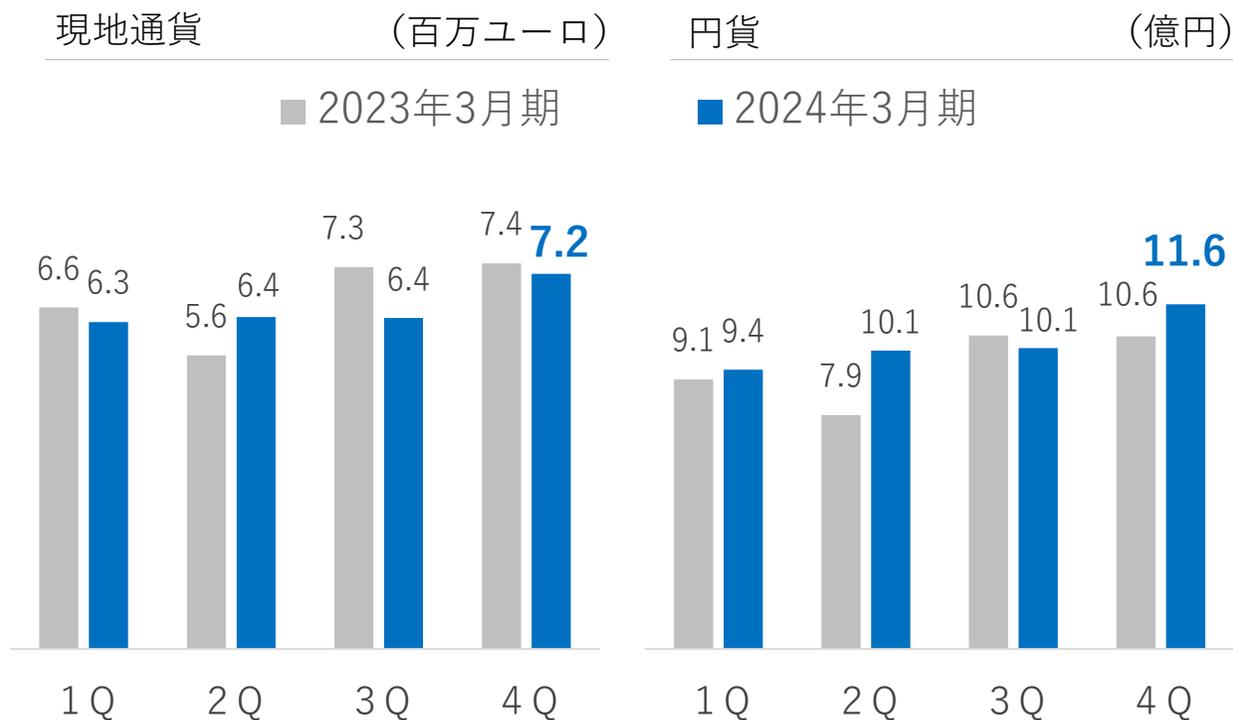
	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	増減率
現地通貨 (百万USD)	72.4	82.2	9.8	13.6%
円貨 (億円)	98.1	118.9	20.8	21.2%

前期比

現地通貨 **13.6%増**

円貨 **21.2%増**

- ◎ 商品供給の正常化により、業務市場を中心にIPネットワーク対応商品の販売が増加
- ◎ バックオーダー解消後も代替提案していたテレビドアホンの販売が好調を維持
- ◎ 為替の影響により、円貨売上が大幅に増加
- ✕ オフィス等への設備投資に抑制の動きが生じ、下半期以降の販売が鈍化



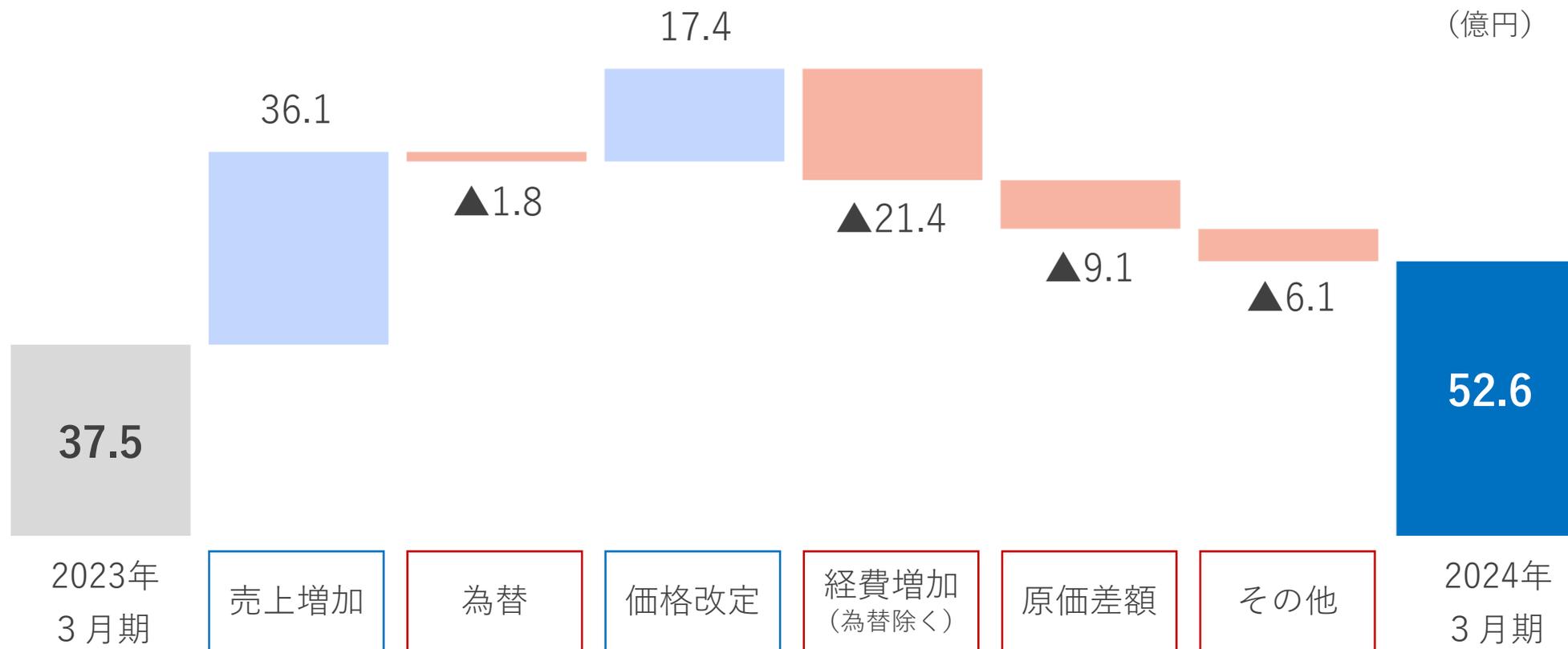
	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	増減率
現地通貨 (百万ユーロ)	27.1	26.4	▲0.7	▲2.7%
円貨 (億円)	38.3	41.4	3.1	8.2%

前期比

現地通貨 **2.7%減**

円貨 **8.2%増**

- ◎ 商品供給の正常化により、戸建住宅向けWi-Fi対応テレビドアホンの販売が好調に推移
- ◎ 為替の影響により、円貨売上が増加
- ✕ 主要国フランスにおいて、住宅ローン金利の上昇等により新築住宅着工数が大幅に減少
- ✕ エネルギー関連商材への投資を優先する傾向が強まり、業務市場のインターホン販売が低迷



◎ 前年度から繰り越した納入残の解消や価格改定の効果等により売上高が大幅に増加し、売上総利益が大幅に増加

✕ 研究開発費の増加等により、経費が大幅に増加

本日の内容

01

2024年3月期

決算ハイライト

02

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の更新

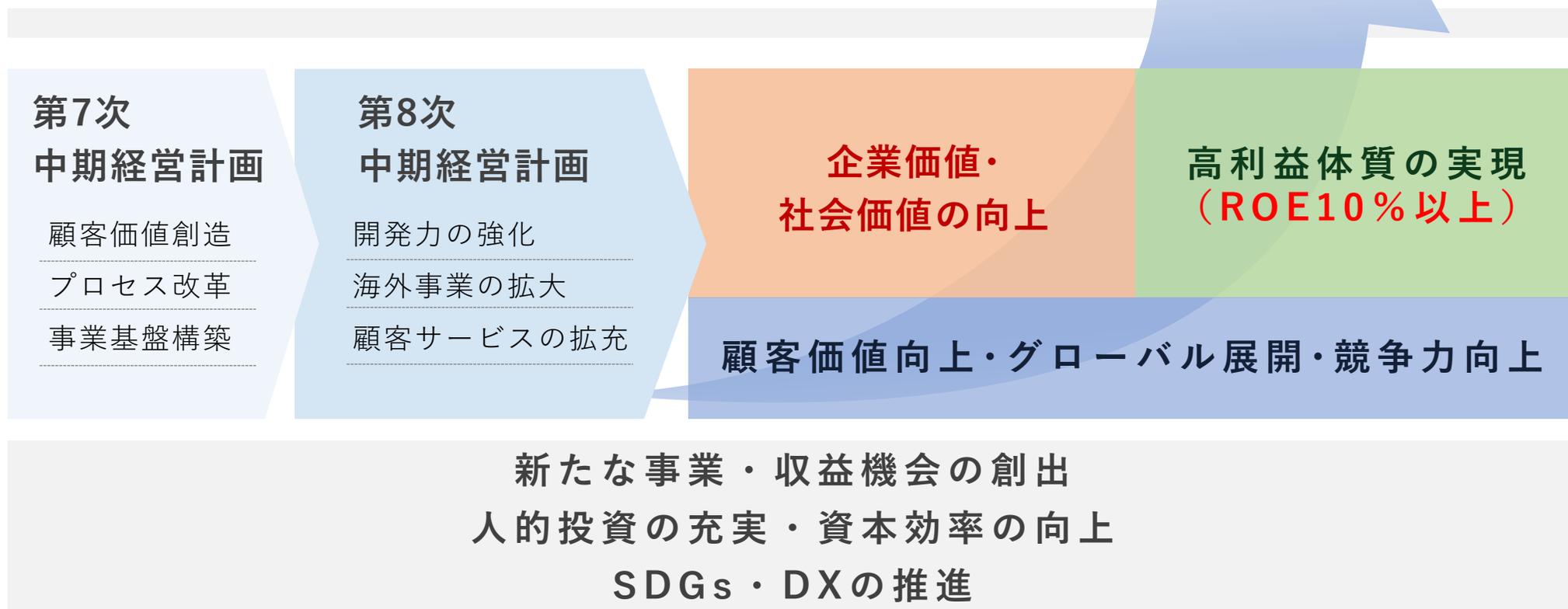
03

2025年3月期

業績の見通し

高利益体質（ROE10%以上）の実現を目指す

2021 ('22 / 3 期) 2023 ('24 / 3 期) 2026 ('27 / 3 期) 2032 ('33 / 3 期)



顧客と社会の期待に応え、 発展し続ける企業体質をつくりあげる

直接的な顧客に加え、ESGやSDGsといった社会からの期待にも応えていきます。
また、本中計期間においては3年間での発展だけを目指すのではなく、
5年後、10年後も発展し続けられる強靱な企業体質をつくりあげていきます。

アイホンの企業価値・社会価値

市場への顧客価値の向上

国内顧客サービスの拡充

海外事業の拡大[3極体制化]

開発力の強化

SDGs推進

人材投資

DX推進

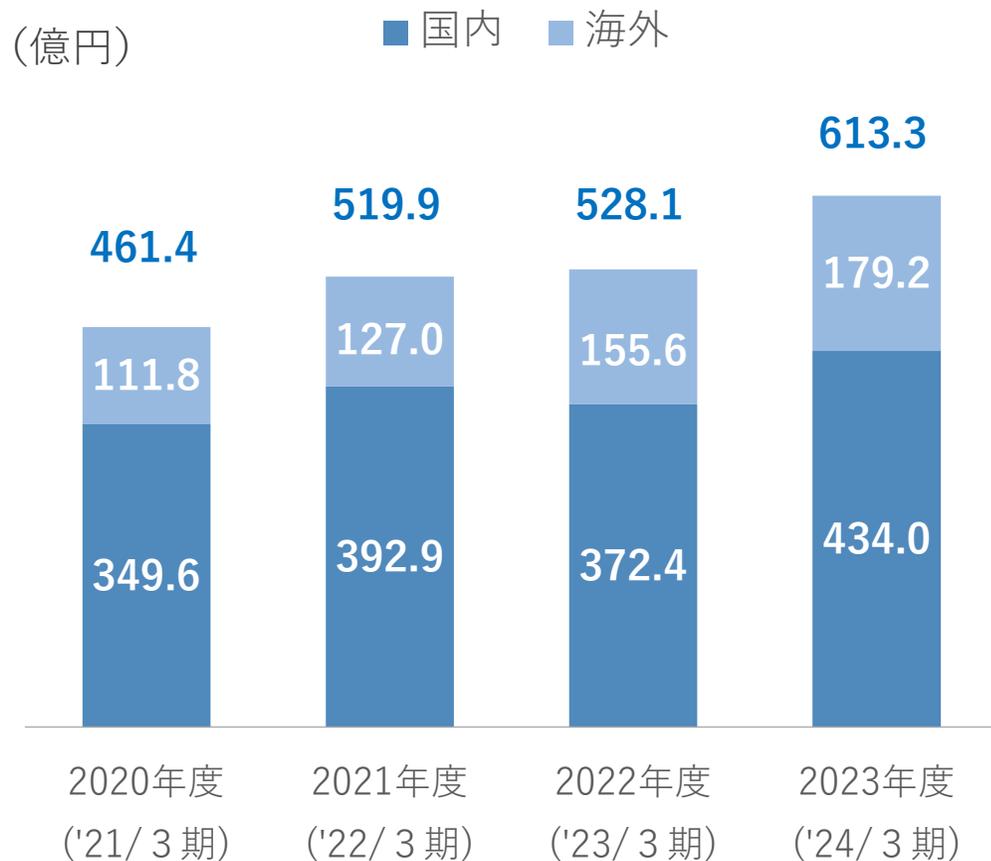
2026年3月期

（2023年5月9日発表）

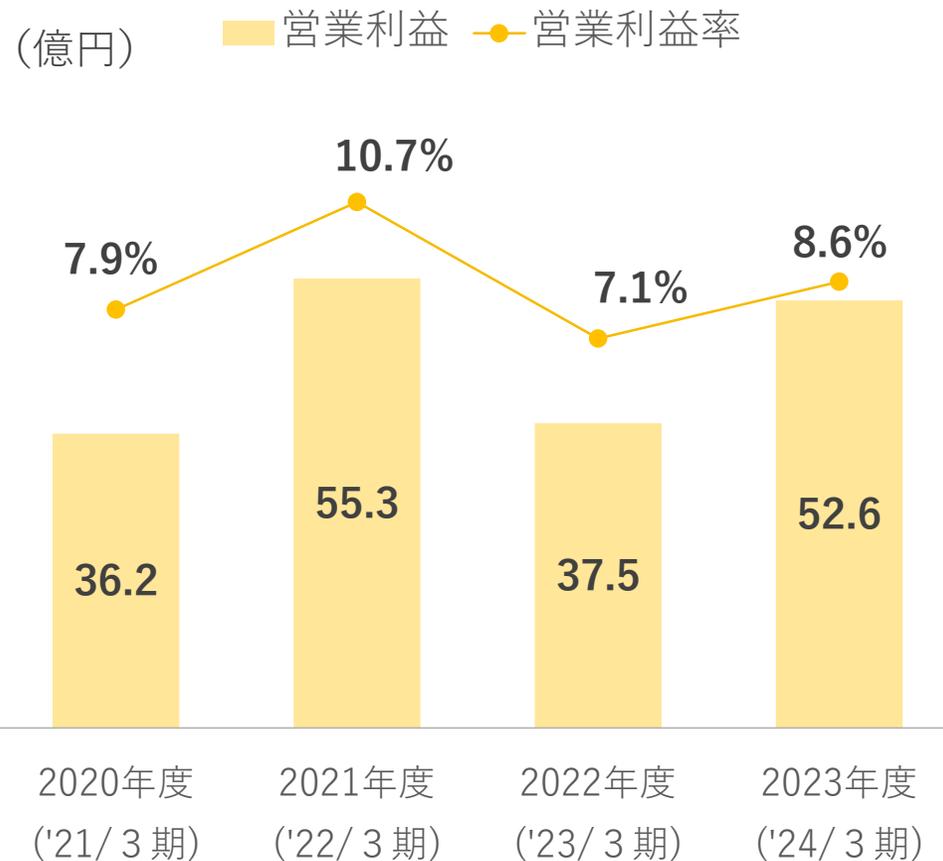
①	営業利益	48 億円
②	営業利益率	8.3 %
③	売上高	575 億円
④	ROE	6.0 %
⑤	CO ₂ 排出量 削減率*	25 %

* 2020年度の排出量を基準とした削減率 Scope1,2が対象

売上高



営業利益



2026年3月期

（2024年5月8日発表）

当初計画

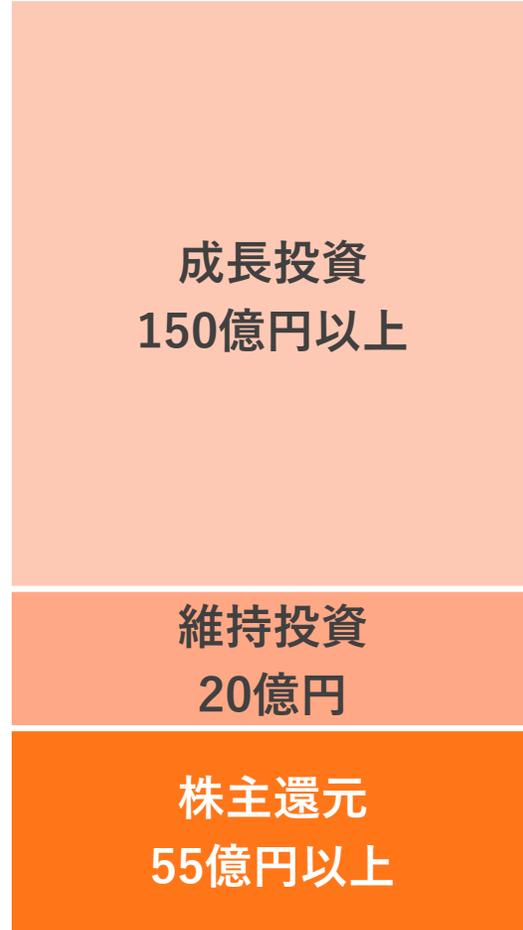
修正計画

①	営業利益	48 億円	▶	56 億円
②	連結売上高 営業利益率	8.3 %	▶	8.8 %
③	連結売上高	575 億円	▶	635 億円
④	R O E	6.0 %	▶	6.4 %
⑤	C O 2 排出量 削減率	25 %	▶	25 %

原資



使途



考え方

- 本業による営業CF及び手元資金を活用し、資本コストを意識した中長期的な成長投資を実行します。
- 株主還元の基本方針とともに、中期還元方針に則り、第8次中期経営計画期間において株主還元を強化し、資本構成の適正化を図ります。(初年度実績：約21億円)

基本方針

長期的な視点に立った安定的な配当の継続に努めるとともに、原則として1株当たりの年間基本配当金額**50円**を念頭に、連結配当性向**35%**を目途とした配当を行います。

中期方針

第8次中期経営計画期間の年間配当につきましては、上記の基本方針に則るとともに、株主の皆様の日頃のご支援にお応えし、より一層の利益還元を図るため、**2023年3月期の1株当たり年間配当金額80円を下回らない**ことを念頭に配当を行うことといたします。また、さらなる資本効率の向上に向け、3期累計で**15億円**程度を目途とした追加還元を実施してまいります。

考え方

企業価値の向上及び持続的な発展のため中長期的な視点に立ち、協業関係又は取引関係等の強化や地域社会との関係等を勘案し、政策保有を行うこととしておりますが、保有の有効性が認められないと考える場合には、政策保有企業との十分な対話のもと、保有の縮減を検討してまいります。

(2023年度縮減実績) 対象：上場銘柄

25銘柄  23銘柄

(非上場銘柄含む保有数は37銘柄から34銘柄へ縮減)

中長期目標

CO2排出量削減目標（対象：Scope1, 2）

2020年度実績

5049.6 (t)



2030年度

2524.8 (t)

(2020年度比 **50%**削減)

2050年度

0.0 (t)

(2020年度比 **100%**削減)

※自社によるCO2排出実質ゼロ

実施・検討策

- 太陽光パネルの設置検討（対象：グループ生産子会社）
- 再生エネルギーの利用
- 社用車のハイブリッドカー切替 など

計 画

インターホン事業による利益の最大化

主な目的

実施事項

収益性の向上

集合リニューアルの促進、『Pabbit』の市場浸透 など

効率的な受注

コンタクトセンターの新設 など

海外事業の拡大

シンガポールのハブ化、現地機能の充実化、開発力の強化

株主・投資家との
エンゲージメント強化

- 決算説明会（本決算・中間決算）
- 四半期ミーティング（適時対応）
- 情報開示の充実化（英文適時開示、ホームページ 他） など

上記を含め、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、継続検討中



2024年内に開示（予定）

本日の内容

01

2024年3月期

決算ハイライト

02

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の修正

03

2025年3月期

業績の見通し

為替は小幅ながら円高基調での推移を予測

(億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	前期比 増減率
売上高	613.3	623.0	1.6%
営業利益 (売上高営業利益率)	52.6 (8.6%)	45.0 (7.2%)	▲14.6%
経常利益	61.3	50.0	▲18.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	46.4	36.0	▲22.5%
為替レート (円)	USD	144.62	142.00
	EUR	156.79	154.00
	THB	4.11	4.00

USD：アメリカ合衆国ドル、EUR：ユーロ、THB：タイバーツ

売上高

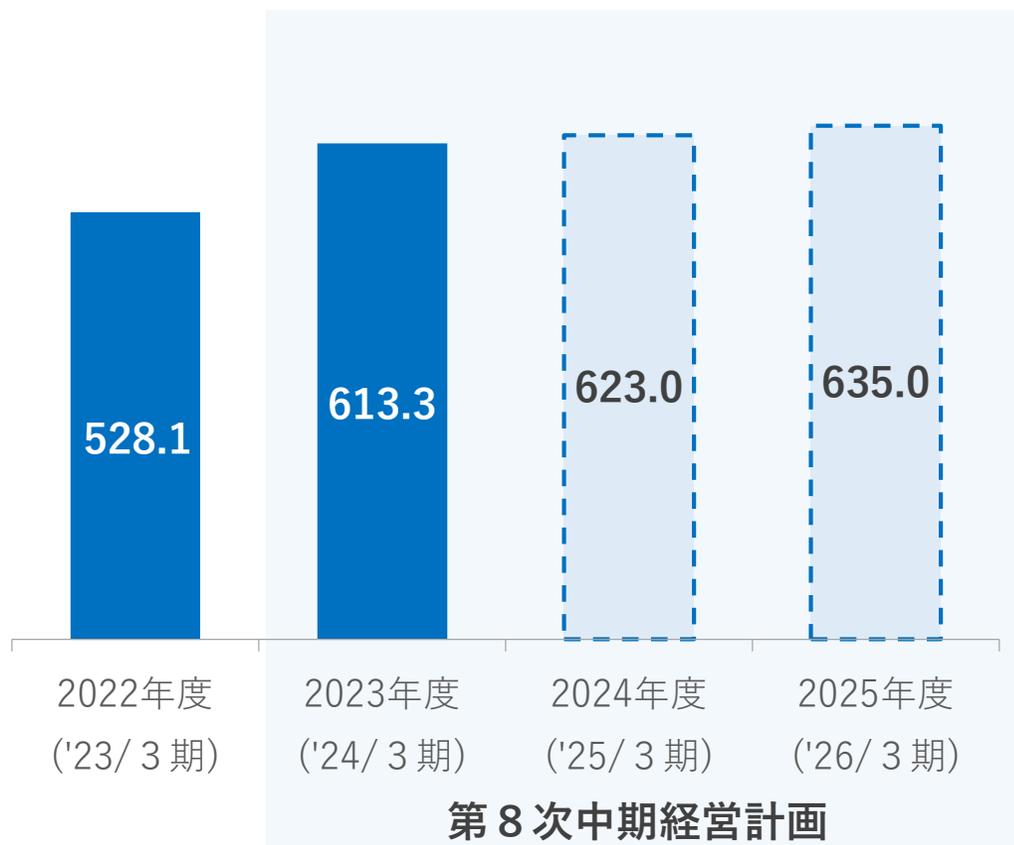
- **国内** 期初時点の見積及び受注内定は新築・リニューアルともに例年の水準を上回る。
- **海外** 為替変動や中国の不動産バブル崩壊、政治動向等に起因する事業への影響について、引き続き注視が必要。

利益

- 国内外の市場動向等を勘案しつつ、適宜価格改定を実施。
- 給与ベースアップや社内基幹システムの更新等による経費が増加。

売上高

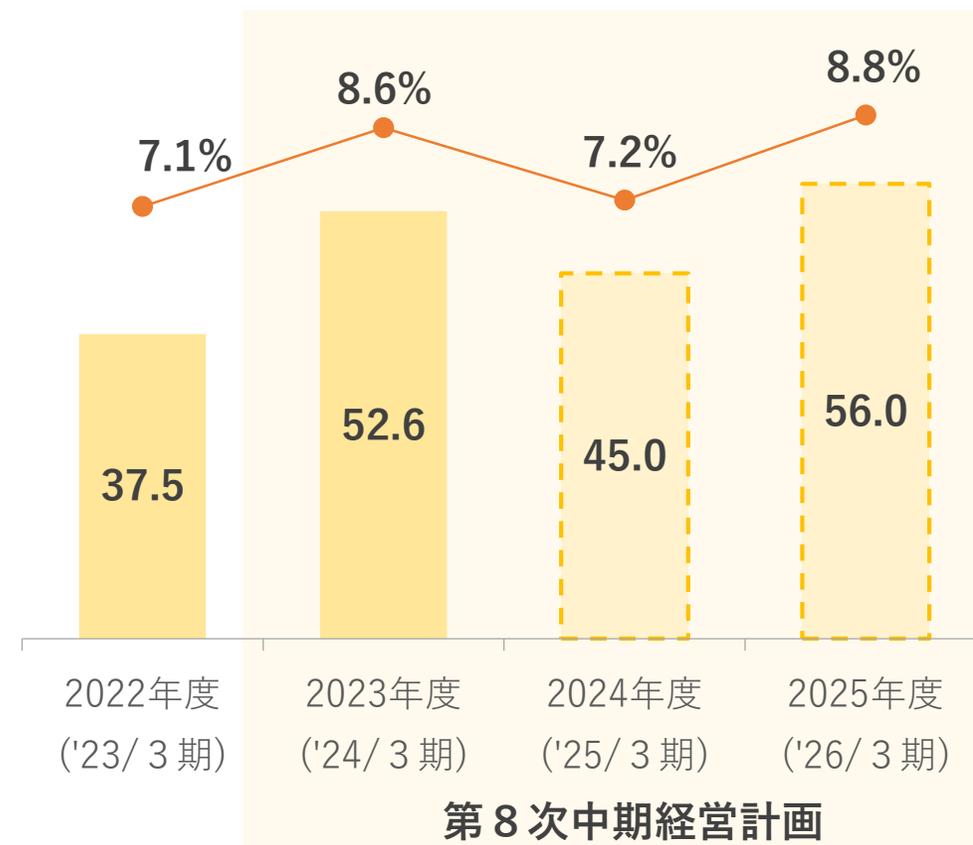
(億円)



営業利益

(億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



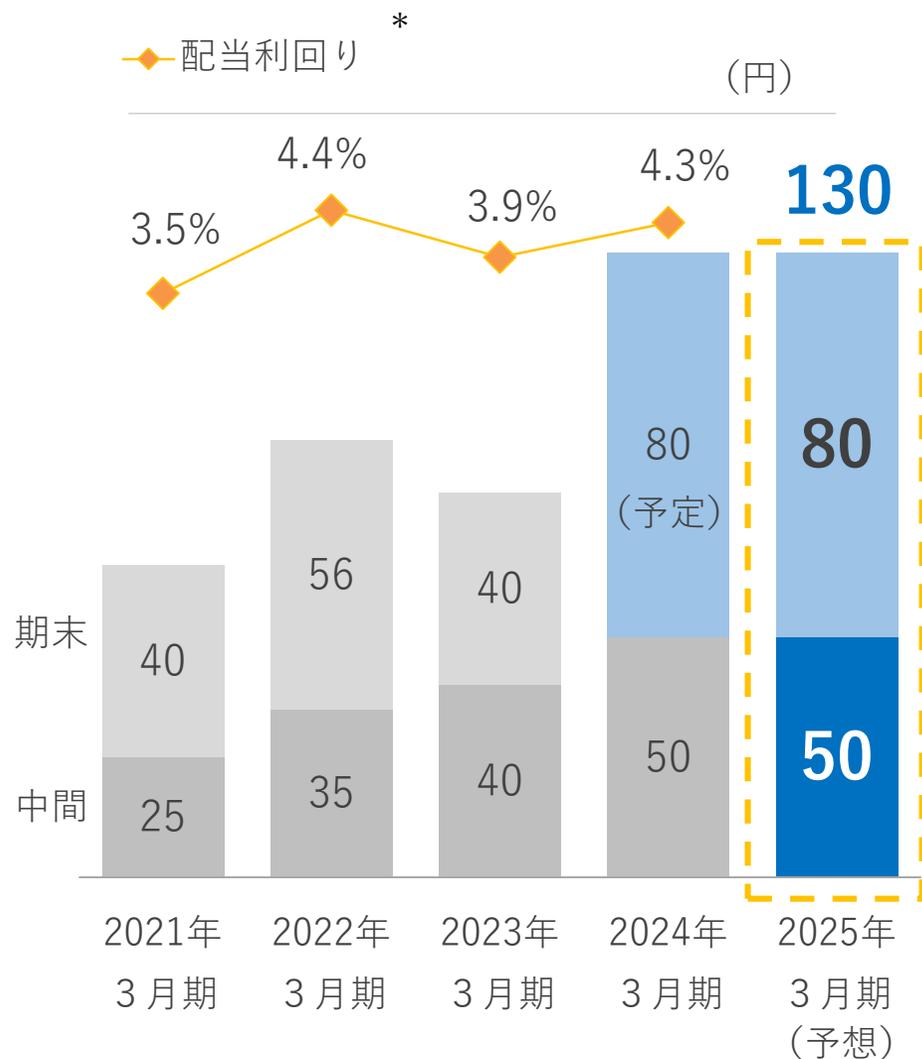
マンションでの受け取りを置き配でもっと便利に

「Pabbit」で Amazon Keyが利用可能！*



* (対象機種) 集合住宅用インターホンシステム「dearis」

* 「Amazon Key」とは、Amazonの委託先であるドライバーが、そのマンションにお届けする商品を持っている時に限り、配送アプリからオートロックを安全に解錠し、お客様の指示に従って玄関前等に配達するサービス



* 各年度 3 月末時点の株価より算出

中期方針

基本方針である配当性向35%をベースに、年間で1株当たり80円を下限に配当することを念頭に、さらに3期累計で15億円程度の追加還元を実行。

年間配当

130円 (予想)

1株あたり年間配当金額100円に
中期方針による追加還元30円を加えた予想金額



本資料に掲載されております業績予想や将来予想は、現時点において入手可能な情報に基づき弊社が判断して予想したものであり、実際の業績は今後様々な要因の変化により予想とは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

アイホン株式会社

<https://www.aiphone.co.jp/ir/>

